



沖縄県宗務特別区

(下間要信教務所長、

沖縄県那覇市)は12月4日、「太平洋戦争全戦没者・沖縄戦終戦70年追悼法要」を糸満市の国立沖縄戦没者墓苑で営んだ。

会場となった平和の

丘式典広場は、6月23日の「沖縄慰霊の日」の式典以外で法要が行われることは珍しい(写真)。戦争末期の

地上戦で20万人の命が奪われ、今も米軍基地

国立沖縄戦没者墓苑

沖縄戦終戦70年で追悼法要

問題を抱える沖縄。法要には、九州各教区や安芸、兵庫、滋賀教区からの団体、宗会議員などが参拝し、平和への思いを新たにしたい」と話した。下間所長は「この沖縄で起きたことを振り返り、今、何が起きているのか再確認し、仏教徒として平和な社会を築くために何ができるかを考えていきたい」と挨拶した。

大分市・長光寺前住職の天在淳空さん(81)は「終戦の時は国民学校の5年生。私も軍国少年で、今振り返れば恐ろしい時代を生きてきた。私にできることは2度と戦争を起させないように努めること。多くの人に平和の大切さと戦争の悲惨さを伝える思いを新たにしたい」と語った。

前日の3日には宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで法要を営み、石上総長は「争いによって多くの尊い命が失われてきた歴史を、決して無駄にして